

中島 康一郎 (なかじま こういちろう)  
 千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科

JIA全国出品作品



2050年、日本における約3000基のダムが寿命を向かえる。戦後、国土総合開発法が施行されて以降、全国各地で河川総合開発事業が進められ、私たちの生活は快適さを獲得した。しかし、現在、荒廃とした国土の復興に貢献したダムは、100年という時間経過により、その機能の終わりを向かえようとしている。本計画では、寿命を迎える廃ダムを解体するのではなく、補強し、時間の経過とともに建築化してゆくダムのコンヴァージョンを提案する。この計画により、役割を終えたダムが、人々、そして土地の記憶をつなぐ永続性をもった建築へと生まれ変わるだろう。

講評

「脱ダム宣言」、「コンクリートから人へ」…わが国の高度成長期より大都市の水瓶と電力供給という重責を担い、社会構造や人口構成の変化とともに、いずれ役目を終えようとしている、土木構造物であるダムに着目し、これを補強して建築に転用するという、極めて大胆で壮大な提案だ。黒部ダムのような美しい大自然の中に存在するダムが、そのままリゾートホテルや居住施設に生まれ変わったとしたら、どれだけダイナミックで刺激的なことだろう。その発想力とプレゼンテーションの表現力、巨大模型による圧倒的な説得力には、審査委員一同舌を巻いた。更新のプロセスを構造躯体の補強と関連させているが、ダム湖からの水圧がなくなる事を考慮すれば、チューブ状の貫通空間とダムの両側に取り付けるストラクチャーは、美的感覚を優先させた配置とした方が、よりリアリティーがあって大自然に融合するエレガントな建築となり得たことだろう。宿泊、文化、商業、美術館などのプログラムが、機能配置に止まらず、ロケーション的なポテンシャルをフルに活かした建築デザインとして表現された姿を、是非とも見てみたい。

(審査委員：青井 俊季)